

# エドウィン・E・ゴードンの Music Learning Theory に基づく乳幼児音楽教育者育成カリキュラム

## —理念・実践・わが国への導入の可能性—

教育デザインコース 音楽領域

小島 エマ

### 1. はじめに（目的）

保育・教育実習や採用試験で課せられる音楽的技能は、鍵盤楽器による幼児歌曲の弾き歌いで測られることが多い。しかし、例えば、わらべうた遊びなどピアノに頼らない音楽的活動をささえる際のア・カペラ唱に、筆者は注目し、保育者・幼児音楽教育者にもとめられるア・カペラ歌唱力育成にフォーカスして研究を進めている。

エドウィン・E・ゴードンの music learning theory（以下 MLT）は、乳幼児の音楽との出会いとして教師のア・カペラ唱を聴くことから音楽教育をスタートさせるメソッドである。本研究では、日本の保育者へのア・カペラ歌唱力育成プログラムとして、MLT を援用する可能性を考察した。

### 2. 方法

MLT の乳幼児期の音楽教育を理論書によって概観したのちに、2016.7.5 から 7.15 にかけて筆者が教育インターンとして参加した、The Gordon Institute for Music Learning 主催の教師育成プログラム（Early Childhood Music Professional Development Course：アメリカ・ペンシルヴァニア州フィラデルフィア市テンプル大学ボイヤー舞踊音楽学部にて開催）における理論、実技演習、乳幼児クラスでの実習を分析した。

### 3. 結果

MLT について。創始者エドウィン・E・ゴードン（音楽教育者）は、現代アメリカの子どもの音楽的能力について神経学や医学的見地からのデータに基づき「Aptitude：音楽の聴き取り能力のそだちを測るテスト」を開発し、そのデータをもとに、どのように子どもが音楽を聴き理解するようになるか、総合的な音楽的能力を獲得するかについての研究を重ね、0 歳から 18 歳まで一貫した音楽教育システムである MLT を構築した。現在、北米各州の幼稚園や小学校で実践されている。MLT メソッドの柱は audiation（聴取：ゴードンによる造語）である。（表 1）

表.1 乳幼児期の聴取活動 訳表筆者

聴取準備期間		Preparatory Audiation	
	Types		Stages
I	Acculturation 誕生から 2-4 歳	1	Absorption 周囲の音を吸収する
		2	Random Response 周囲の音へ動き・喃語で偶然に応答
		3	Purposeful Response 意識的な応答
II	Imitation 2-4 歳から 3-5 歳	1	Shedding Egocentricity 自己中心的に動きや声を発する
		2	Breaking the Code 音程・リズムパターンを真似る
III	Assimilation 3-5 歳から 4-6 歳	1	Introspection 周囲と自分の歌、唱え歌、動きに調和がとれているかがわかる
		2	Coordination 息・動きを合わせ、歌い・唱える

以上のように観察・分析された聴取準備期間に聴取されるための教材作りをするのが、ミュージシャンシップクラスである。ミュージシャンシップクラスでは、7つの教会旋法、複合拍子を含む複雑なリズムを使った教材を歌いこなし、作曲する。その実技演習で培った教材は乳幼児親子クラス実習の機会で実践された。そこでは、音を音で正確に伝える音楽技術力、音以外の要素（呼吸、動作など）によって表す表現力を以って子どもと教師が音楽を伝え合う姿がみられた。

### 4. 考察

日本の一般的な保育現場とは、①多旋法・多調・複合リズムの教材を聴かせる、②音の読み書きの習得を見据えている、③音楽専攻者が音楽教育を担当する、主に以上の点で大きく異なる。しかし、保育者が音楽的活動をア・カペラ唱により、身体表現や呼吸を伴って展開することは可能である。また音素材としての教会旋法には、日本のわらべうたと西洋音楽をつなぐ広がりを持つ教材であると考察するにいたった。